

高等部2年 課題学習・学習指導案

1 題材 時計を読んでみよう

2 題材について

(1) 設定理由

- 本グループは3名で構成されている。3名とも教師の簡単な指示を聞いて行動することができる。課題に対しても楽しみながら取り組むことができる。しかし、分からぬことには消極的になりあきらめてしまうことがある。
- 学校生活では、高等部での時間の流れが分かっていて時計を見て行動することは少ない。そのため、始まる授業は何であるか分かっていても、時刻を意識した行動を取らないため、開始時間に遅れてしまうことがある。2名は自力でバスに乗っての通学もしており、時間を気にして行動をしなければならない場面もある。「あと少しで○時△分だから準備しよう」と生活の中で時刻を意識した生活を送いたらと考えている。時計については3名ともデジタル表示の時計や○時の時間については、読むことができている。しかし、○時△分となると、正確な時刻を読むことがまだ難しい。○時30分については1時間読み間違えてしまったり、○時△分では短針と長針の数字を読み間違えたりなど、正確な時刻を読むことが難しい。このようなことから、時計を見て時刻を読むことができるようになることで、さらに生活の中で自分の行動と時刻が結びつくことができるのではと考えた。
- そこで本題材では模擬時計を使い時刻を読む活動を設定した。導入部分では、時計とすろくを楽しみながら、○時、○時30分、デジタル表示を見て模擬時計を操作する活動を取り入れ、より時計に興味を持つことができるようとした。また家庭では、見たいテレビ番組などと関連付けて時刻を気にするきっかけになればと考えている。また、短針と長針の色を変え、分けて考えることで、まずは短針を見て○時が分かり、次に長針で△分かが分かるように、それぞれに注目させる補助シートを用い、段階を踏んで指導していきたい。少しでも時計に慣れるきっかけになり、日常においても時計を見て時間を意識できればと考え、本題材を設定した

(2) 生徒の実態

氏名	時刻・時間	学習態度・行動特徴など
A	○時を読むことができる。○時30分については6時を過ぎると、どちらの数字を読み取って良いのか混乱することがある。好きなテレビ番組の開始時刻を知っているなど時間に興味がある。	課題に対して、前向きに取り組むことができる。しかし、集中が途切れた時には関係のないことにも興味が移ってしまったり、最後まで話を聞かず慌てて行動をしてしまったりすることがある。
B	何分に対しては5分刻みでは、読むことができる。△分については、細かい目盛りをよく見ずに読み違えることがある。○時30分を過ぎると、○時の読み違えがある。	話をよく聞いて活動することができる。分からぬことや自信のないことには、消極的になってしまうことがある。褒められることで自信をもって取り組むことができる。
C	○時を読むことができる。○時30分については、混乱することがある。普段からデジタルの腕時計をしていて、自分の時計で時刻を見ることがある。	答えが分からなくなると、声が小さくなり活動が止まってしまうことがある。興味のある活動や自信のある活動については、安心して活動に取り組むことができる。

(3) 個別目標

氏名	個別目標
A	模擬時計を手がかりに、△分が分かる。
B	時計を見て、△分が分かる
C	模擬時計を手がかりに、△分が分かる。

3 指導計画 (25時間取扱い: 1単位 45分)

第1次 時計になれよう・・・・・・・・・・・・・・・・ 7時間

第2次 時計を読んでみよう・・・・・・・・・・・・ 18時間 (本時は第8時)

4 本時の指導

(1) 個別目標

- 補助シートを手がかりに、○時30分までの時刻を読むことができる。(A)
- 目盛りをよく見て△分を読むことができる。(B)
- 模擬時計や補助シートを手がかりに、○時30分を読むことができる。(C)

(2) 準備・資料

ワークシート、模擬時計、補助シート、時計カード、時計シート、時計すごろく、さいころ、コマ

(3) 展開

⇒評価の観点

時間	学習内容・活動	指導・支援上の留意点
2 20	1 本時の学習内容を知る。 (1) 始めのあいさつをする。 (2) 学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に体を向けてあいさつをすることで、学習の始まりを意識できるようとする。 ・学習の流れを確認することで、見通しを持って取り組むができるようとする。
20	2 全体で活動する。 (1) 時計すごろくをする。 ① ○時を読む。 ② ○時30分を読む。 ③ デジタル表示を見て、模擬時計を操作する。 ④ カードの時刻を見て、やっているテレビ番組を調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・さいころやコマなどを用いすごろく形式で進めることで、苦手意識をもたず楽しく活動できるようとする。 ・生徒が安心をして活動に取り組めるよう、自信を持ってできる内容を導入で取り入れるようにする。 ・AやCが○時30分の読み方で戸惑っている時には、補助シートを用いて自分で確かめて答えることができるようとする。 ・デジタル表示を見て、模擬時計を操作する活動では、先にデジタル表示を見て何時かを確認してから、模擬時計でその時刻に合わせることができるようとする。教師も模擬時計で時刻を合わせ、生徒が自分で答えが合っているかを確かめることができるようとする。 ・テレビ番組表を簡単にすることで、時計カードの時刻に合った番組を探せるようとする。 <p>⇒補助シートを手がかりに、○時30分を読むことができたか。</p>
20	3 個別の課題を行う。 (1) 時計を見て時刻を答える。 A—○時△分、7時△分 8時△分のワークシートをする。 C—○時30分のワークシートをする。 B—○時△分のワークシートをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・Cには、模擬時計や補助シートを用いることで、自分で確認しながら時計を読むことができるようとする。 ・Aには補助シートを使うことで、短針と長針を分けて考えるように言葉かけをする。△分については、7時と8時に限定をして長針だけに注目できるようとする。 ・Bには、分からなくなった時には補助シートを使っても良いことを伝えることで、安心をして取り組めるようとする。できるだけ自分の力でよく目盛りを見て時計を読むことができるようとする。 ・賞賛することで、自信を持って取り組めるようとする。 <p>⇒補助シートを使うことで、○時30分までの時刻を読むことができたか (A)</p> <p>⇒目盛りをよく見て△分を読むことができたか (B)</p>
3	4 本時のまとめをする。 (1) 学習活動を振り返る。 (2) 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り頑張ったことを賞賛することで、本時の学習への達成感をもつことができるようとする。 ・教師に体を向けてきちんとした姿勢であいさつすることで、学習の終わりを意識できるようとする。